



宇宙の潮騒 悲しいまでに広がる星の海
一粒の真珠……地球よ
帰りつくべき故郷への想い
"われらはよみがえる 地球の土に"

ララ・ 地球へ…

原作◆竹宮恵子 / 監督◆恩地日出夫

製作◆東映動画株式会社 / 配給◆東映株式会社

TOWARD THE TERRA

◆人気最高！竹宮恵子の大河SFアニメ、ついに映画化！

■萩尾望都、大島弓子と並んで、少女マンガ界に一大ブームをまきおこした竹宮恵子——その世界は、マンガという表現形式を借りて、少年期特有の繊細な感受性を描きだした。その作品は、単に少女マンガの枠を脱して、多くの人々に、はかりしれない感動を与えた。

「地球へ…」は、月刊マンガ少年に、1977年1月から連載された、作者初めての少年誌連載ものであり、その雄大なスケールは、大きな話題となった。5月の風のようなみずみずしい感性のときめきは、宇宙空間というこれ以上求めようもない、神秘的で永遠の舞台の上で、大きく花ひらいた。

そして、アニメーション・ファンクラブによる《いま最もアニメにしてもらいたい作品》の投票では、堂々「地球へ…」が、第1位を獲得。昨年「銀河鉄道999」で大ヒットをとばした東映動画が、全国のファンの熱狂的な要望に応えて、映画化を決定した。

荒れてゆく地球の危機に直面しているいま、未来宇宙を時代背景として、そこに生まれた新しい人類と既存の人類との宇宙戦争を舞台に、人間の、そして青春のあるべき本当の姿を、壮大なスケールで美しくあざやかに描きだしたロマン超大作、それがこの「地球へ…」だ。

◆画期的な手法、ユニークな声の出演者たち！

■ロマンあふれる「地球へ…」のメカは、従来のSFアニメとは、一味ちがう。決まりきったイメージではなく、自由で人間的な発想に、という恩地監督の提案で、ミュウの宇宙船は、貝殻をモチーフにしたデザイン。また宇宙空間も、実在感を出すために、これまでにない画期的な手法が採用された。

ジョミーはじめ、主要な声の出演者には、井上純一、秋吉久美子、沖雅也、志垣太郎、薬師丸ひろ子、岸田今日子、と、これまでにない豪華なキャスティングが組まれ、久松保夫、池田昌子、神谷明、増山江威子ら、ベテラン声優も顔を並べて、壮大なスケールの物語が展開される。

日本映画音楽界の重鎮・佐藤勝の大オーケストラによるスペース・サウンド、そしてタ・カーポの歌による主題歌も、大ヒットが約束され、「地球へ…」は、いま、夢とあこがれと希望のすべてをこめて、発進した！

◆アニメーションに新しい青春の息吹きを吹きこんだ壮大なドラマ！

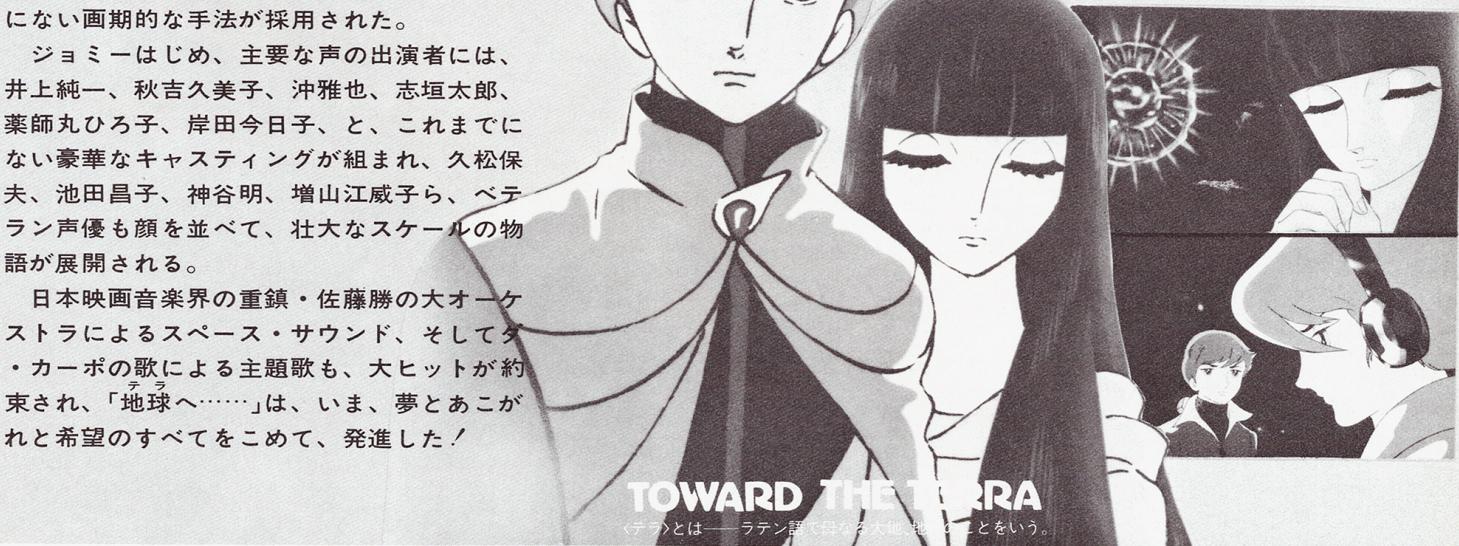
■時は——今よりはるか未来のS・D500年(S・Dとは、スペリオルドミナントの略)。人類の文明は、その絶頂期を迎え、ワープ航法により、広大な宇宙への進出も可能になっていた。だが、地球自体は、環境汚染、人口増大などで、すでに滅亡寸前。なすすべもない人類は、ついに人類そのものが地球衰退の原因だという結論に達した。

その対策は、地球から2万光年離れた、人工惑星アタラクシアに、幼年育英都市を設け、生れてくる子供たちに特殊な教育を施す。14歳の《目覚めの日》を迎えた子供たちは、成人検査を受け、合格した者だけが、地球へ送られて健全な市民として生活できる。ジョミーも、そんな子供のひとり。何度かのESPチェックをくぐりぬけてきたジョミーだったが、ある偶然から、自分が《ミュウ》のひとりであることを知る。ミュウとは、管理社会の異分子である超能力を持った新人類。彼らは迫害から逃れ、アタラクシアの地下にひそみ、地球へ帰ることを願っていた。ミュウの長ソルジャー・ブルーは、3世紀にわたる寿命の燃えつきる寸前に、自らの意志をジョミーに伝えた。ミュウの歴史と悲願を知ったジョミーは、一族をひきつれて、船を地球へと向かった。宇宙の中の一粒の真珠「地球」めざし、いま、少年たちの愛と勇気と冒険がはじまる。

人類全体の存亡を賭けた大いなる冒険は、そこから火ぶたを切った——。

ララ 地球へ…

製作／東映動画(株)
配給／東映(株)



もの凄い人気！4月26日(土)より全国一斉ロードショー

各館
共通券

丸の内裏パラス
(535) 4740

浅草裏パラス
(841) 8722

池袋東急
(971) 2727

豊東急レックス
(407) 7019

新宿裏パラス
(351) 3061

新宿東急
(200) 1981

★特別鑑賞券1000円(当日・一般1300円・大学1200円・高校1100円)絶賛発売中！

日・祝 9:00 平日 11:20 1:40 4:00 6:20